

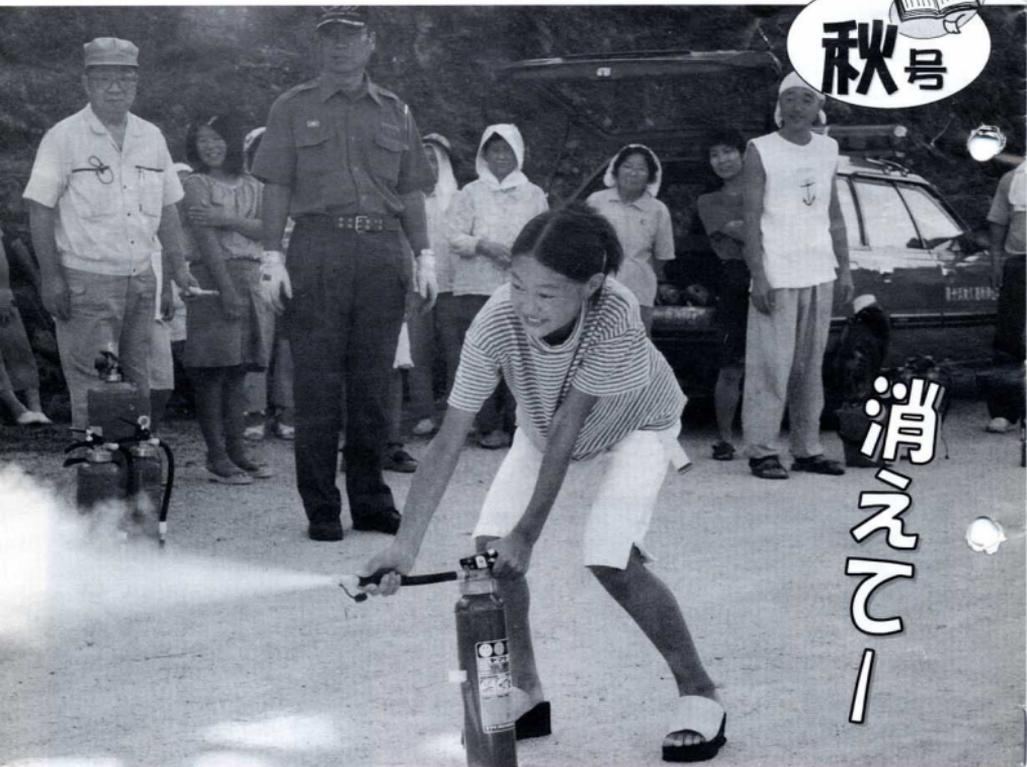
広報

たんごの風

2000
vol. 6

「安心」を支える消防をめざして

秋号



消えてー

消火器の取扱い講習

8月5日(土)に防火座談会が久美浜町栃谷区であり、みなさん積極的に参加・訓練されました。

日頃見かけるだけの消火器を、実際に使って火を消す訓練も行いました。ポイントはあわず、落ち着いて、しっかりと目標に向かって構えてね。

もうこれでいざというときには大丈夫

火事・救急・救助



局番なしの119へ
(携帯電話でも同じです)

Present.Past.Future

救急の現在・過去・未来



みなさん真剣な取り組みでした

近年、減少の傾向にある火災に比べ、お年寄りの増加や社会の多様化に伴い、救急は増加の一途をたどっています。これは必然的に、命にかかわる救急も増えることにつながり、将来的にも、この傾向はますます強くなると思われまます。

一刻を争う救急では、救急隊到着するまでのいわゆる「空白の時間」に、1秒でも早いみなさんの救命手当と、救急隊への連携がいかにかうまてできるかということが大切になってきます。

言い換えると、これからの救急や社会は、救命手当の一層の習得を、みなさんに対して求めているともいえます……

今や常識

救命手当はあなたの手で

交通事故による 負傷者の搬送から

救急は昭和38年にそれまで火を消すだけであった消防の仕事に新たに加えられた。その当時に、自動車の普及とともに増える交通事故の負傷者をお医者さんのところまで搬送することが主な目的でした。

そんな中でスタートした日本の救急制度も、交通事故の負傷者だけでなく、急病人など様々な患者さんを搬送する機会が次第に増え

始め、救急車内での応急処置の重要性が求められてきました。

そこで昭和61年に、搬送する患者さんに対して応急処置をすることが法律で定められました。丹後広域消防組合ができたのは、この1年後の昭和62年です。

この頃、みなさんにも救急車のサイレンが聞こえるようになり「そういえば今まで救急車はいなかったな」と感じられたのではないのでしょうか。それまではパトカーやタクシー、町の救急搬送車が救急車の代わりをしていたのですから。

今度は自分たちだけでやってみよう



こうして丹後6町にも救急車が走るようになり、全国的にも救急車の走っていないところは殆どなくなる中で、救急隊員の応急処置、特に救命処置の技術の向上が求められ、平成3年、救急救命士法が制定。みなさんも耳にされたことがある「救急救命士」という、国家試験に合格した救急隊員の誕生となりました。

高規格救急車には

救急隊員は、救急現場で、患者の生命を救うために、高度な技術と知識を駆使しています。その中でも、高規格救急車は、救命の要です。

① 救命器具の整備
 ② 救命器具の整備
 ③ 救命器具の整備



日本の救急も「搬送」から「応急処置」へ、そして今では「救命処置」へと進歩してきました。もちろん丹後広域消防でも、職員は研修・訓練などを重ね、技術と知識の向上に努めています。これからも、更なる救急隊員の技術や知識の向

上が叫ばれる一方で、家族の誰かが倒れ、呼びかけても返事がないうようなことになった時、何をどうしたらよいのか分からない方が、みなさんの中におられると思います。いくら救急隊員の技術や知識が向上しても、その救急隊員は到着しなければ何もできないのです。そして、この救急隊員が到



着するまでの時間があなたの家族の生死を分けるのです。そばにいるあなたが手当てできることが最善の応急手当であり、最善の救命手当なのです。

救急隊が現場で行うことは、患者さんの状態を観察し、必要な応急処置をして病院へ搬送することです。

しかし、救急隊が到着するまでに家族の人などそばにいる人により、的確な応急手当がなされていれば、病院へ搬送するまでの時間が短縮され、その後の病気やケガの経過にも大きな影響をおよぼすことになり、そして、何より大切な家族の命が助かることにつながります。

「救命講習会」の更なる普及を

みなさんの中には「救命講習会」に参加されていない方もあるかと思いますが、まだの方はもちろん、参加された方も、繰り返し何度も受講してください。

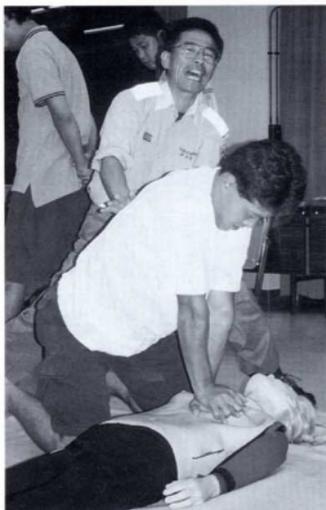
現在、救急救命士を中心に「普通救命講習会」を様々な機会をとらえて行っていますが、まだまだみなさんに普及するまでには至っていないのが現状です。みなさん、進んで救命処置を身に付けてください。

指令システムの更新でより早く・よりの確に

これからの「丹後6町の救急」を考える上で、丹後広域消防組合では、救急救命士を増やすとともに、救急隊の知識や技術の向上を図っていきます。

そして、平成14年には指令システムの更新を予定しています。今までよりも早く、的確に現場に駆けつけ、患者さんを病院のお医者さんの元へ運べます。

丹後の将来は高齢化問題だけではありません。病気や事故によるケガ等も年々多様化する中、安心と安全を提供できるように、救急業務とそれを支える体制を整え、また、みなさんと共に救命手当の普及を図り、社会の複雑化に備えていかなくてはなりません。



心臓マッサージにも汗がながれます
 ゆっくり、じっくりマスターしてください

丹後すべてに救命手当を



応急手当

吉岡 昌俊

あなたは家族や友人を救えますか？突然ケガをしたり急病になったときなど、急場をしのぐためにどうあえす行う手当を応急手当といえます。応急手当で大切なことは、あわてず適切な判断をくだし、細心の注意を払いながら迅速に行動し、順序を揃って手当することです。傷病者の全身状態をよく観察し、意識・呼吸・脈拍の有無を診て、必要に応じて全身に対する手当を行うもので、あくまでそれ以上悪化させないことが目的です。よく「応急手当なんて怖いことはしません。知らない」と耳にしますが、「怖い」と思っているあなたへの「応急手当」こそを、心臓の止まっている傷病者は欲しているのです。

現在丹後広域消防には7名の救命士が活躍しています。我々が、今、一番力を入れていることは、「この丹後に、救命手当」を広めること。このテーマに関連する意見を、それぞれの救命士に話してもらいました。

普段、現場でしか接することのない救命士の思いに、耳を傾けてみてください。



救命士が行う医療行為について

山添 敏弘

救命士が行う医療行為には、①除細動（電気ショック）②静脈路確保（点滴）③器具を使用している気道確保の3つがあります。これらの行為は、心臓が停止している人に対して行います。実施する際には、京都市消防局にある指示センターの医師と緊密に連絡を取り合います。救命士が現場に到着し、これらの救命処置をその現場で行うか、また搬送を優先させるかは、事故に遭われた方の状態を観察し、その方の利益を最優先に考え判断しています。搬送を急ぐあまり、処置もせず搬送して状態を悪化させることもあるからです。



現場処置

末次 正博

みなさんの中には「救命隊は医者ではないのだから、現場で応急手当をしているより、早く病院へ連れて行ってくればよいのに」と思われる方もいらっしゃると思います。救命隊も重症の患者さんになればなるほど、1分でも早く病院へ搬送し、医師に引き継ぎたいと思っています。しかし、何の処置もしないでただ病院へ搬送することが良いのでしょうか？病院までの時間をただ浪費することになり、患者さんの症状を悪化させることになると思います。医師も治療するうえで、できるだけ詳しい傷病者の情報を必要としているのです。

救命隊は時間との戦いの中で、その情報を一つでも多く病院へ伝えることができるよう、そして適切な処置をして一刻も早く病院へ搬送できるよう日々努力をしています。

体験・事例



丹後町砂方
柿本正高さん

9月3日、私の父は救急隊員に助けられました。救命士のおかげで、父は助かりました。

父は網野町でサッカーの試合中に倒れました。父は心臓が止まりました。父は倒れたとき、父は心臓が止まりました。父は倒れたとき、父は心臓が止まりました。

父は倒れたとき、父は心臓が止まりました。父は倒れたとき、父は心臓が止まりました。父は倒れたとき、父は心臓が止まりました。

倒れてから2分以内で救急隊が到着し、救命士が到着しました。救命士は父の心臓を再開し、父は助かりました。

父は倒れたとき、父は心臓が止まりました。父は倒れたとき、父は心臓が止まりました。父は倒れたとき、父は心臓が止まりました。

今年の9月3日に網野町で父が倒れた事例です。救命士のおかげで、父は助かりました。



119のかけかた について

坂井 和正

救命は119番通報したときから、すでに始まっています。通報の時間は、救命車があるところまでかかります。通報の時間は、救命車があるところまでかかります。通報の時間は、救命車があるところまでかかります。



バイスタンダー

中村 一隆

救命患者が発生したとき、そのそばに居合わせた人のことを「バイスタンダー」といいます。呼吸や心臓が止まると、脳に酸素が運ばれなくなり、酸素がなくなると脳は3〜4分で壊れるといわれています。丹後では救命車到着に平均8分が必要で、救命車の到着まで患者をそのままにしておく、回復させることがとても困難になります。



救急講習の 時間について

吉岡 日出圭

消防署では正しい応急手当をみなさんに覚えていただくため、年間を通じて救急講習会を実施していますが、夏休みを前にして小学校プール開きの時期に集中するPTA対象のものが圧倒的です。さて、この講習会では毎年の行事的取組みの側面があるため、時として時間が短く十分な効果が発揮できません。特に心肺蘇生法の実技指導を中心とした講習では、より効果的普及のため、1時間半から2時間程度の計画をお願いします。真のタイム・イス・マネーこそ、大きな効果をきつと生みます。



救急救命士に なった動機

小森 英志

私が救急救命士になった動機は、今から21年前の高校3年生の夏でした。バイクに乗り友達の家から帰宅途中、交通事故に遭い、ある個人病院に運ばれたのですが、当病院では対応ができませんでした。その後、最後の高校生活が入院で終わってしまいましたが、完治していない足の手術のために2回ほど入院することになりました。この長い入院生活の中では、先生・看護婦さんたちから患者さんに対する思いやり、優しき、熱意等多くのことを学びました。昭和62年に消防署に採用され、救急車にも乗るようになりました。昭和62年救急現場で外傷を負っている患者さんを見て、ただ病院へ運ぶだけの救急隊ではなく、何か救急現場において早急な処置ができないものかと思っていた頃、平成3年に救急士法が施行され、「よしこれだ」と思い救急士になったのが動機でした。

フォト キッズ



吉原小1、2年生の職場訪問(9月29日 峰山町)



火点に向けてそれー



しっかり握って構えてね

中学生 職場体験



水圧すごいでしょ

8月1日と2日に、峰山消防署と久美浜分署に、網野・久美浜中学校から合計7名の生徒さんが職場体験をされました。みなさん感想はいかがでしたか？



みんなで並んでハイポーズ

つけた火は
必ずけそう!!



学校や消防署で火事の原因などを勉強し、実際にお母さんが天ぷらをあげているのを見て、火の怖さを知り、それを絵に描きました。特選と知って大変うれしいです。

特選

大宮第二小学校
にしだ あさみ
西田 麻美さん

今年も小学校4年生を対象に防火の図画を募集したところ、16の小学校から347点の応募作品がありました。特選となった西田麻美さんの作品は防火ポスターとして、年間火災予防に役立させていただきます。たさんの力作をありがとうございます。

第6回火災予防
啓発ポスターコンクール
347点の力作
16校から応募

盛況でした 普通救命講習会

表情は真剣そのもの



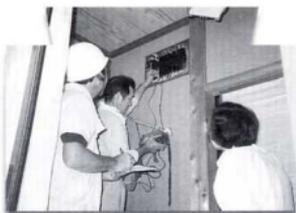
7月7日と9月9日（救急の日）

の2日間で、峰山消防署で普通救命講習会が行われ、合計84人の方が参加されました。命のともし火を消さないための救命処置をみなさん熱心に訓練されました。

押えるところが大事です



人工呼吸も真剣に



電気工事組合の方と一緒にチェック
一人暮らし老人宅配線診断（8月25日 弥栄町）



とってもかわいい消防士さん（大宮町）

ねえ
みてみて



テビッコファイヤーマンに変身だ

防災
消防
防災



地震車体験で地震の怖さを再認識（大宮町）

佳作

- 新山小学校 山本 彩さん
- 島津小学校 澤 聖雄くん
- 久美浜小学校 森野みなみさん
- 溝谷小学校 吉岡 泉さん
- 間人小学校 亀田 京さん
- 間人小学校 廣瀬 旬哉くん

入選

- 久美浜小学校 岡田 雄磨くん
- 大宮第二小学校 野村 沙希さん
- 吉野小学校 村上 加奈さん

審査を終えて

今回、応募作のなかに、用紙を横にして描かれたものが多くみられました。募集要項にも「縦」に規定していますので、残念ながら審査対象外となりました。次回は、学校からも指導をしていただきたいと思っております。

ホスター図画は「よくわかること」そして「ていねいな色をつけ・美しい仕上げ」を第一に考えてください。また、現代の生活にふさわしい題材やタイトルで、子供らしい発想による作品を期待します。

特選作品はわかりやすく、イラストらしい表現の工夫がみられます。イラストも子供らしい表現で、配色もよく、ていねいにしっかりと描かれています。

- 丹後地方教育委員会連絡協議会
教育長部会長（大宮町教育長）
小牧 重貴さん
- 京都府消防協会丹後支部長
（丹後町消防団長）
森口 茂樹さん
- 図画有識者（峰山町）
竹本 毅さん
- 染色作家（弥栄町）
植野 真知子さん

審査員のみならず、



火災予防運動

11月9日(木)～
11月15日(水)

丹後管内 火災急増

昨年の丹後管内における火災発生件数は12件で、消防組合発足以来最小限に終わることができました。

ところが、今年は既に20件の火災が発生し、また火災に満たないぼや火災は26件にも及んでいます。

ぼや火災においてはたき火などの不始末によるものが非常に多く、消火の不十分さが目立っています。

これから冬を迎え、今以上に火の取り扱いが多くなります。再度気を引き締め、火の用心に心がけて下さい。



網野町浜詰
奥 久幸 氏



久美浜町宇湊宮
水戸 信輔 氏

人命救助

感謝状等贈呈



今年、7月10日久美浜町宇葛野、葛野浜海水浴場で、暑合に流されている女性を6人の青年が協力し無事救助しました。

丹後広域消防組合	山田 正広 氏	中西 政博 氏	京都中部広域消防組合	村上市 和史 氏	綾部市消防本部	水戸 信輔 氏	久美浜町宇湊宮	奥 久幸 氏	網野町浜詰
日下部 宣仁 氏									

編集後記

今回、応急手当を特集したところ、丹後町砂方の柿本正高さんからたいへん貴重な体験談を寄せていただきました。

▼心臓と呼吸が停止しても迅速な救命処置が施されれば助かる可能性が高いこと。そして誰もがバイスタンダーの立場に突然立たされることがあること。この2点が切実に伝わること。この2点が切実に伝わること。

▼救命講習会でも、回を重ねるごとに参加者も増えつつありますが、今回の特集で更なる増加を願っています。

消防組合が発足した時、各家庭へ配布しましたが、破れたり色あせたりしているものもあるかと思えますので、今回内容を一新し作成しました。ご家庭の電話近くに置いて、緊急時に役立てていただきたいと思います。

119カード発行

たんごの風
119
輝煌期